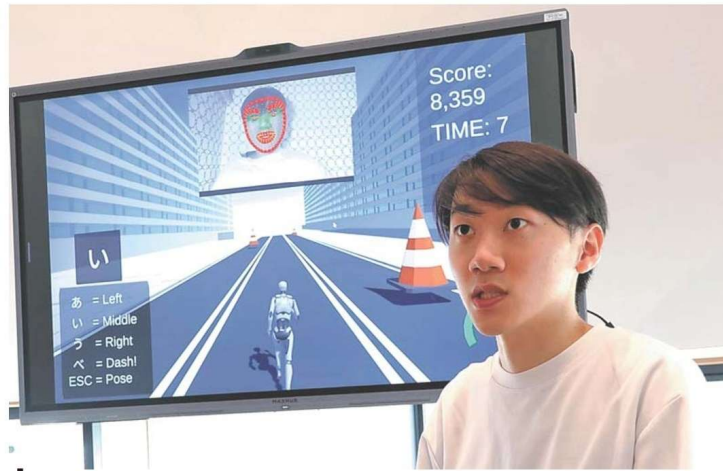




口周りの体操を題材にしたゲームを制作した小川さん
(京都市山科区・京都橋大)

口周りの体操題材に大学生が制作

ゲームで楽しく 鼻呼吸を促す

京都橋大の学生が口呼吸を改善し鼻呼吸に役立つとされる口周りの体操「あいうべ体操」を題材にしたゲームを制作した。口の動きでキャラクターを操作し得点を重ねる仕組みで、楽しみながら気軽に継続できる工夫を凝らした。

工学部4年の小川立葵さん(21)は、走るキャラクターを口の動きで、左右に操作し、障害物をよけたり、コインを獲得したりしながら制限時間30秒でスコアを競う「AIRUBE DASH」を制作した。幼少期に矯正治療をする中で、歯科医から勧められ、あいうべ体操に取り組んだ

ものの、鏡を前に口を動かすことに面白みを感じられず断念。楽しみながら体操を継続できたかとの思いからゲーム制作に取り組んだ。

初のゲーム制作で、カメラが読み取った口の開き方をスムーズにキャラクターに伝える仕組み作りに試行錯誤した。昨年12月の学内

口の動きでキャラ操作

のコンペに出展し、「これなら自分も続けられたかも」との評価を受け、さらに操作性を改善。今年5月、ゲーム投稿サイトへ作品を投稿した。

制作をきっかけに、就寝中の口呼吸改善のため自身もゲームをプレイしているといい、「口を動かして遊ぶ楽しさを感じて、継続のモチベーションにしている」と呼びかける。

小川さんは大学の学びを通して、もの作りの楽しさを実感したことから、大学院へ進む予定だ。「社会課題をゲームやデータコンテンツを使って解決できるような取り組みたい」と意欲を燃やす。

ゲームはパソコンやスマートフォンで楽しめる。プレーは投稿サイト(<https://ritk.itch.io/airubedash>)で。(湯沢宏生)